

つくろう、未来を。
つくろう、素材で。

2021年5月10日
愛知製鋼株式会社

「愛知製鋼グループ 2021-23年度 中期経営計画」を策定

愛知製鋼株式会社（代表取締役社長：藤岡高広）は、2021年度から2023年度までを対象とした「愛知製鋼グループ 2021-23年度 中期経営計画」を策定しました。

これは、「愛知製鋼グループ 2030年ビジョン」実現に向け、そのスタートとなる3年間の重点課題を定め、その実行計画として策定したものです。2050年カーボンニュートラルやCASEの進展、コロナウイルス、DXに代表されるデジタル技術の導入、グローバル競争の激化などの厳しい環境変化を踏まえ、生き残りをかけた具体的取り組みを盛り込んでいます。

【概要】

(1) 基本方針と目指す姿

「愛知製鋼グループ 2030年ビジョン」で掲げる「事業とモノづくり力の変革で収益力を向上させESG経営を実践」を基本方針に、以下3つの経営指針実現に向け、積極的な活動を展開していきます。

(2) ESG経営の実践 ～3つの経営指針～

<p>1) 持続可能な地球環境への貢献</p>	<p>「2050年カーボンニュートラル」は電力多消費産業の当社には生産継続の危機となるが、危機をチャンスに変え、4つの「R」を視点に技術開発や新市場開拓を通じて果敢に挑戦</p> <p>①Reduce（減らす） 鋼の製造プロセス改革による消費エネルギー削減</p> <p>②Reuse・③Recycle（再利用） 電気炉排熱の回収／再利用や蓄熱技術の活用</p> <p>④Renewable（再生可能） クリーンエネルギーの活用促進</p>
<p>2) 事業の変革で豊かな社会を創造</p>	<p>①CASE対応（鍛鋼一貫や高強度材料技術による自動車部品開発・拡販、パワーカード用部品の技術開発と供給体制構築、磁気マーカシステム（GMP S）の早期事業化</p> <p>②鍛鋼一貫の更なる進化（商品の付加価値向上を見据えた機械加工領域の取り込みとインド・アセアンでの事業拡大）</p> <p>③水素社会・インフラクライシスへの対応（戦略的な商品投入）</p> <p>④新鉄供給材（PDMA）、CG病対策材のグローバル販売網の構築</p>
<p>3) 従業員の幸せと会社の発展</p>	<p>①多様な人材の活躍促進（65歳現役実現制度の企画、女性スタッフキャリア開発、シニア・女性に優しいモデルラインづくり）</p> <p>②従業員満足度の向上（職場風土改革プロジェクトの推進、カフェテリアプラン導入、新单身寮の建設）</p>

上記の経営指針に加え、DX（デジタルトランスフォーメーション）によって働き方やモノづくり全体の基盤強化に取り組みながら、コロナ禍での学びとしての「新しいビジネス様式」と生産量の変動に柔軟に対応する「真の限量経営」に取り組んでいきます。

(3) 収益目標

2030年時点での連結営業利益200億円以上を達成するため、その最初のプロセスとして**150億円**を目指します。

【参考】詳細資料：[「愛知製鋼グループ 2021-23年度 中期経営計画」](#)